

令和4年度
教職課程
自己点検評価報告書

東北公益文科大学
教職課程運営部会

【目次】

I 教職課程の現況及び特色

II 基準領域ごとの教職課程自己点検評価

基準領域 1 教育理念・学修目標

基準項目 2 授業科目・教育課程の編成実施

基準項目 3 学修成果の把握・可視化

基準項目 4 教職員組織

基準項目 5 情報公表

基準項目 6 教職指導（学生の受け入れ・学生支援）

基準項目 7 関係機関との連携

III 「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス

IV 現況基礎データ一覧

I 教職課程の現況及び特色

1 現況

- (1) 大学名：東北公益文科大学
学部名：公益学部
- (2) 所在地：山形県酒田市飯森山三丁目 5 番地の 1
- (3) 学生数及び教員数（2022 年 5 月 1 日現在）
学生数：978 名
教員数：39 名

2 特色

本学公益学部公益学科に設置している教職課程は次の通りである。

◆中学校教諭一種免許状

【免許状の種類及び教科】	【課程をおく学部・学科】
社会	公益学部公益学科

◆高等学校教諭一種免許状

【免許状の種類及び教科】	【課程をおく学部・学科】
公民	公益学部公益学科
地理歴史	公益学部公益学科

教職課程の特色は次の通りである。

- (1) 「教職課程履修ガイド」
- (2) 「教職課程ワークシート」
- (3) 「履修カルテ 自己評価シート」

上記(1)～(3)の資料に基づき、教職課程履修学生に対し、学期初め（年 2 回）の教職課程ガイダンスや個別面談において、教職を志すことへの心構えや教員として身につけるべき必要な資質・知識・技能、科目の履修上の注意点等、細やかな指導をし、一人一人に寄り添った様々なサポートを行っている。

また、カリキュラム・ポリシーの一つである「応用演習科目」の「プロジェクト型応用演習」の科目の一つでは、庄内地域の小中学校において「公益」をテーマにした授業を実施しており、教育実践の場を提供し、全学的にも教員養成に取り組んでいる。

II 基準領域ごとの教職課程自己点検評価

基準領域 1 教育理念・学修目標

(1) 基準項目 1-1 教員養成の目標及び当該目標を達成するための計画策定状況と見直し状況

〔現状説明〕

人材育成像やディプロマ・ポリシーに基づき、教員養成の目標を設定し、その目標を達成するための計画を策定している。

また、学生による授業評価アンケートの回答や「履修カルテ 自己評価シート」の記載内容、教育職員免許状取得状況や就職状況、学習指導要領の改訂、新設教職科目等の設置、新たな教育施策などの教育環境の変化等を踏まえて、教員養成の目標、計画の見直しを行っている。

〔長所・特色〕

教職課程履修者は、各学期初めに「履修カルテ 自己評価シート」、「教職課程科目履修状況ワークシート」を作成して、教職科目や実習等の学習成果を確認し、面談等で活用している。

【根拠となる資料・データ等】

資料 1-1 東北公益文科大学 理念と使命 (https://www.koeki-u.ac.jp/about_us)

東北公益文科大学 教育方針 (<https://www.koeki-u.ac.jp/academics>)

資料 1-2 東北公益文科大学 教員養成の状況に関する情報の公表

(https://www.koeki-u.ac.jp/about_us/information)

資料 1-3 「履修カルテ 自己評価シート」

資料 1-4 「教職課程科目履修状況ワークシート」

基準項目 2 授業科目・教育課程の編成実施

(1) 基準項目 2-1 教職課程の授業科目に必要な施設、設備の整備がされているか。

〔現状説明〕

教職課程に関連する書籍は図書館に整備され、貸出可能となっている。また、授業はBD/DVDプレイヤー、電子黒板を設置している教室を中心に開講し、「教育課程の編成と ICT 活用を含む教育の方法」の授業ではタブレット等を使用するなど、必要な ICT 環境を整備している。

〔長所・特色〕

電子黒板を 3 台設置し、模擬授業等の指導で使用している。また、授業支援アプリケーション (MetaMoJi) をインストールしたタブレットを 20 台用意し、いつでも貸し出しできるよう

にしている。

【根拠となる資料・データ等】

資料 2-1 課程認定申請資料

資料 2-2 教室 AV 機器一覧表

(2) 基準項目 2-2 教育課程の編成・実施について

〔現状説明〕

人材育成像やディプロマ・ポリシーに基づき、体系的な教育課程を編成している。

全学的な教育課程の実施は教育推進センターが担当しており、同センターに設置された教職課程運営部会において、教職課程に関する科目が適切に実施されているかを確認するなど、効果的な役割分担を図っている。

具体例として、GIGA スクール構想により ICT 環境の整備が進んだことなどから、教育の現場で ICT 活用指導力が求められている現状に鑑み、令和 4 年度に新設された科目「教育課程の編成と ICT 活用を含む教育の方法」を中心に、「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」といった科目群の科目においても、ICT 活用に関する内容を取り扱っている。

〔長所・特色〕

カリキュラムツリーとナンバリング、基本履修モデルにより、学生に科目同士の関連性と各科目を履修する上での前提科目を明示し、系統立てて履修できるようにしている。

【根拠となる資料・データ等】

資料 2-3 『学修の手引き 2022』

資料 2-4 東北公益文科大学 教育方針 (<https://www.koeki-u.ac.jp/academics>)

(3) 基準項目 2-3 キャップ制の設定状況

〔現状説明〕

学生の単位修得状況に応じて必要な学修時間を確保するため、直前semesterの GPA に応じて履修登録上限単位数を設定するキャップ (CAP) 制を、全学年で実施している。

【根拠となる資料・データ等】

資料 2-3 『学修の手引き 2022』

(4) 基準項目 2-4 教職科目および教職科目として設置されている科目が基準項目 1-1 における教員養成の目標を達成するための内容(到達目標、授業計画、新たな手法の導入状況等)との関連性。

〔現状説明〕

個々の授業科目について、教職課程コアカリキュラムに対応した到達目標や授業計画を定め、シラバスに記載して学生に示している。

また、講義、演習、実習、アクティブラーニング、ディスカッション、ICT 活用など、授業科目の到達目標に応じて適切な授業方法による授業を行っている。

その上で、ディプロマ・ポリシーで定める力を 22 のスキルに分け、個々の授業科目でどのスキルを育成するかについて、シラバスに明記し、22 のスキルそれぞれについて 6 段階で達成レベルを示した「ルーブリック」により、学生が達成状況を評価できるようになっている。

〔長所・特色〕

上記に記したスキルを育成するために、課題学習、グループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーション、ディベート等、アクティブラーニングを積極的に推進している。それぞれの科目がアクティブラーニングを取り入れているかどうかはシラバスにチェック欄を設けており、学生が履修登録前に確認できるようになっている。

【根拠となる資料・データ等】

資料 2-5 科目シラバス (<https://sip.koeki-u.ac.jp/uprx/>)

(5) 基準項目 2-5 教育実習及び教職実践演習をどのように実施しているか。

〔現状説明〕

教育実習は事前指導の「実習指導」、「教育実習 I・II」、事後指導の「教職実践演習」で構成している。

① 事前指導 (4 年次の 4 月～5 月)

- ・ 実習のオリエンテーション (実習希望者に対する説明等)
- ・ 模擬授業、授業プログラム懸案の作成及び評価
- ・ 実習予定校への訪問、ガイダンスの実施

② 事後指導：「教職実践演習 (中・高)」の履修

教育実習を踏まえて、教職に関する知識やスキルおよび強化に関する知識を振り返り、教員として必要な資質・技能について理解を深める。

〔長所・特色〕

教育実習期間中は、メールや電話等により随時学生からの相談に応じている。また、実習中

に当該校の理解の下に訪問し、研究授業の参観や事後指導に参加するなどして、実習生への指導を行っている。

また、事後指導の中で、「教育実習報告会」を開催し、教育実習日誌をもとに教育実習の振り返りと学生同士の意見交換を行っている。

【根拠となる資料・データ等】

資料 2-6 「教職実践演習」シラバス (<https://sip.koeki-u.ac.jp/uprx/>)

資料 2-7 令和 4 年度教育実習報告会報告書

基準項目 3 学修成果の把握・可視化

(1) 基準項目 3-1 教員養成の目標及び計画について、学生がどの程度達成しているかを確認するために履修カルテ等の活用状況。

〔現状説明〕

各学期初めの教職ガイダンス時に、教職履修者全員に教職課程履修カルテを配り、記入させている。履修カルテに基づき、自分自身の振り返りと課題を考えさせ、面談時に活用している。

〔長所・特色〕

履修カルテへの記入を通じて、振り返りと今後の自己課題を考えさせる機会を設けている。

【根拠となる資料・データ等】

資料 3-1 「履修カルテ 自己評価シート」

基準項目 4 教職員組織

(1) 基準項目 4-1 教職課程認定基準で定められた必要専任教員数の配置状況及び業績について。

〔現状説明〕

教職課程認定基準で定められた必要専任教員を配置している。

〔長所・特色〕

定年退職等に伴う教員補充は計画的に行っており、担当授業科目に関する研究業績を有していること等を教育推進委員会で確認した上で採用している。また、毎年 2 月末までに全専任教員に教員業績調書を作成してもらい、担当授業に関する研究業績状況について確認している。

【根拠となる資料・データ等】

資料 4-1 令和 4 年度 教育課程変更届 新旧対照表

資料 4-2 東北公益文科大学教員評価実施要領

(2) 基準項目 4-2 教職課程に係る FD、SD の実施状況

〔現状説明〕

令和 4 年度も下記の通り FD・SD を開催している。

<FD (ファカルティディベロップメント) >

回数	期日	内容
第 1 回	令和 4 年 4 月 20 日	本学が提供するオンラインツールの活用及びオンライン授業の進め方等について
第 2 回	6 月 1 日	認証評価に向けた自己点検の進め方について
第 3 回	7 月 6 日	公益学部再編について
第 4 回	12 月 14 日	ミライニにおける新しい図書館の在り方について
第 5 回	令和 5 年 1 月 25 日	学修者本位の教育に向けての授業設計
第 6 回	2 月 22 日	令和 7(2025)年度以降の公益学部・公益学科について
第 7 回	3 月 23 日	ICT 活用による授業改善について

<SD (スタッフディベロップメント) >

回数	期日	内容
第 1 回	令和 4 年 6 月 1 日	認証評価に向けた自己点検の進め方について
第 2 回	7 月 6 日	公益学部再編に向けて
第 3 回	8 月 30 日	研究充実のための体制整備について
第 4 回	8 月 10 日～9 月 22 日	ハラスメント防止研修(オンデマンド方式) 「ハラスメントの基礎を理解する」 「大学教員のためのアカデミック・ハラスメントの防止」

〔長所・特色〕

FD・SD は全学的に実施しており、令和 4 年度は教職課程運営部会が主となった FD・SD は開催していないが、太字で記載した内容については（オンラインツールや ICT 活用による授業改善等）教員養成においても重要な分野であるため、研修で得た知識を授業等で活用している。

また、年に 1 回教職担課程担当の専任教員と非常勤講師による「教職課程教育懇談会」を開催し、学生への指導方法、現状の課題、対策、今後の授業の進め方について議論を交わしている。

【根拠となる資料・データ等】

資料 4-3 FD・SD 開催状況

(3) 基準項目 4-3 授業評価アンケートの実施状況

〔現状説明〕

開講した授業全てで授業評価アンケートを実施している。

〔長所・特色〕

学生は授業最終日に携帯端末を使って回答し、担当教員はアンケート結果を確認して、授業構成や教え方、今後改善したい点などについてまとめ、学生へのフィードバックのため学内 Web 上にコメントを掲載している。

【根拠となる資料・データ等】

資料 4-4 授業評価アンケート実施要領

基準項目 5 情報公表

(1) 基準項目 5-1 法令（教育職員免許法施行規則第 22 条の 6）に定められた情報の学外への公表状況

〔現状説明〕

法令（教育職員免許法施行規則第 22 条の 6）に基づき、以下の事項について、本学の HP にて情報公開している。

- ・教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画
- ・組織図
- ・教員数及び職員数
- ・教員紹介
- ・シラバス
- ・教員免許状取得者数状況
- ・卒業者の教員への就職状況
- ・教員の養成に係る教育の質の向上に係る取組

〔長所・特色〕

学内外の方々が必要な情報にいつでもアクセスできるようにしている。

【根拠となる資料・データ等】

資料 5-1 法令根拠（免許法施行規則 22 条の 6）

資料 5-2 東北公益文科大学 教員養成の状況に関する情報の公表

(https://www.koeki-u.ac.jp/about_us/information)

基準項目 6 教職指導（学生の受け入れ・学生支援）

(1) 基準項目 6-1 教職課程を履修する学生の確保に向けた取組をしているか。

〔現状説明〕

アドミッション・ポリシーを含む公益学部の教育方針を大学パンフレットやHPで公開するとともに、複数の入学試験で多様な人材確保を図っている。教職課程については、HP上で教員免許状取得までのプロセスや履修モデルを公開しているほか、学期初めに行うガイダンスで、1・2年生に教職課程の履修を呼びかけている。その上で、各学期の授業開始前に別途教職課程ガイダンスを行い、履修希望者は説明を聞いた上で履修登録を行う仕組みになっている。

〔長所・特色〕

履修希望段階では、知識や技能などの受け入れ基準は設けず、教職に関心がある学生が挑戦しやすくしている。

【根拠となる資料・データ等】

資料 6-1 『教職課程履修ガイド』

(2) 基準項目 6-2 学生に対する履修指導の実施状況

〔現状説明〕

上記(1)の通り、教職課程履修者及び教職課程履修希望者に対して、各学期の授業開始前に教職課程ガイダンスを実施しており、ガイダンスでは「履修カルテ（自己評価シート）」、「教職課程科目履修状況ワークシート」「前学期における教職科目に関する科目の履修状況」に記入させ、記入した履修カルテ等を基に、教職課程担当教員が学生と面談し、履修指導を行っている。なお、面談は、年度初めは教職課程履修者全員に行っているが、秋学期開始時は主に成績不振者を対象としている。

〔長所・特色〕

『教職課程履修ガイド』により、科目の履修条件等を学生に示しているが、成績不振者は履修出来ない仕組みとなっているため、面談時に履修状況を確認しながら指導を行っている。

【根拠となる資料・データ等】

資料 6-2 「履修カルテ 自己評価シート」

資料 6-3 「教職課程科目履修状況ワークシート」

資料 6-4 前学期における教職科目に関する科目の履修状況

(3) 基準項目 6 - 3 学生に対する進路指導の実施状況

〔現状説明〕

教員採用模擬試験を教職課程履修者全員に周知し、教員を目指す学生は必ず受験するよう指導している。また、公立学校教員選考試験受験希望者に向け、論文作成指導、面接指導等の特別講座を設けている。

なお、本学の HP では「卒業生の教員免許状取得状況」や「卒業生の教員への就職状況」を毎年公表している。

〔長所・特色〕

年度初めに必ず教職課程担当教員と面談することで、学習状況に応じたきめ細やかな指導を行っている。面談をすることで、学生の教職に対する意欲や適性を把握し、教員免許状取得件数、教員就職率を高めている。また、教職に就いた卒業生とも連携し、在学生に向けた話しをしてもらう機会を設けている。

【根拠となる資料・データ等】

資料 6-5 東北公益文科大学 教員養成の状況に関する情報の公表
(https://www.koeki-u.ac.jp/about_us/information)

基準項目 7 関係機関との連携

(1) 基準項目 7 - 1 教育委員会や各学校法人との連携・交流の実施状況

〔現状説明〕

本学教員が大学所在地である酒田市の教育委員会委員に任命されているほか、地域の高校長会の会長が本学の評議員を務めていることなどにより、連携が図られている。

また、酒田市内の小学校において学習ボランティアへの参加を促している。

〔長所・特色〕

「応用演習科目」では、カリキュラム・ポリシーに基づき、ディプロマ・ポリシーで示した能力を育成するため、4 単位以上修得することを卒業要件としているが、このうち、「プロジェクト型応用演習」の科目の一つでは、庄内地域の小中学校において「公益」をテーマにした授業を実施しており、学生に対して教育実習とは別に教育実践の場を提供している。

【根拠となる資料・データ等】

資料 7-1 東北公益文科大学 教育方針 (<https://www.koeki-u.ac.jp/academics>)

(2) 基準項目 7-2 教育実習等を実施する学校との連携・協力の実施状況

〔現状説明〕

教職科目担当教員は、実習期間中、メールや電話等により随時学生からの相談に応じている。また、実習中に当該校より要請がある場合には随時訪問し、研究授業の参観や事後指導に参加するなどして、実習生への指導を行っている。さらに、大学での学びが実践的な指導力の向上に資するよう、実習担当教諭や配属学年教諭及び学校長等と意見交換を図り、連携・協力している。

〔長所・特色〕

教育実習中にトラブル等が発生した場合に早急に対応できるよう、連絡先を学生に伝えるなど、実習生を支える体制が整っている。また、受入校側との連絡内容等については随時、教務学生課と教職課程担当教員に報告するよう、『教職課程履修ガイド』にも明記している。

【根拠となる資料・データ等】

資料 7-2 教育実習受入承諾書（4校）

資料 7-3 『教職課程履修ガイド』

(3) 基準項目 7-3 学外の多様な人材の活用状況

〔現状説明〕

教職課程を充実させるために、実際に教職に就いている卒業生が必要に応じて研修会を行っている。

〔長所・特色〕

在学時の教員採用試験に向けての取り組み方や、中学校教員となった感想など、身近な先輩から話を聞くことが出来る機会を設け、学生の学修意欲の向上を図っている。

Ⅲ 「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス

令和4年度第3回教職課程運営部会にて「教職課程に関する自己点検・評価の実施方針(案)」を作成し、自己点検評価書の作成の流れ等について確認のうえ、同方針を承認した。

その後、上記方針に基づき教職課程運営部会で令和4年度の自己点検評価報告書の案を作成し、教授会で承認された。

IV 現況基礎データ一覧

令和4年5月1日現在

設置者 学校法人 東北公益文科大学						
大学・学部名称 東北公益文科大学 公益学部						
学科やコースの名称 公益学科 経営コース、政策コース、地域福祉コース、国際教養コース、観光・まちづくりコース、 メディア情報コース						
1. 卒業者数、教員免許取得者数、教員採用者数						
① 昨年度卒業者数				230名		
② ①のうち、就職者数 (企業、公務員を含む)				208名		
③ ①のうち、教員免許取得者の実数 (複数免許取得者も1と数える)				7名		
④ ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用+臨時的任用の合計数)				3名		
⑤ ④のうち、正規採用者数				0名		
② ④のうち、臨時的任用者数				3名		
2. 教員組織						
	教授	准教授	講師	助教	助手	—
教員数	17名	16名	3名	2名	1名	—
相談員・支援員など専門職員数 1名						